

現在までの長期モニタリング項目の主要な見直し状況

1. 長期モニタリング計画とその見直しに係る背景・経緯

■計画の位置づけ

- ・目的：知床世界自然遺産地域における順応的な管理を効率的・効果的に実施するために必要となるモニタリング項目とその内容を定める
- ・2012（平成24）年2月策定、2015（平成27）年2月に評価基準等を一部変更
- ・計画期間は10年一期。概ね5年毎に計画の継続・変更について検討を行う。
第1期：2012（平成24）年4月～2022（平成34）年3月

■見直しの位置づけ

- ・計画策定から5年が経過したことから、計画の変更について検討を行うもの。

■見直しの進め方

- ・2017（平成29）年度及び2018（平成30）年度の2カ年で見直しを行う。
（科学委員会及び各WG等での議論のほか、適宜ML等を活用し計画的に検討）
- ・平成29年度にこれまでの各モニタリング項目の実施結果の整理と評価を行う
「中間総括評価」を実施。
→モニタリング項目の追加・削除、評価基準等の変更を各WG等で実施。
- ・各モニタリング項目の見直しとともに、計画本文の見直しを実施。

<2017年（平成29）年度>

- 第1回科学委員会 計画の見直しの進め方等
- 第2回科学委員会 各モニタリング項目の中間総括
各項目において見直しが必要な箇所の抽出等

<2018年（平成30）年度>

- 第1回科学委員会 見直し状況の確認・共有
- 第2回科学委員会 計画本体を含む変更案の検討
→改定

※作業の進捗状況によって、改訂完了は2019年（平成31年度）にずれ込む可能性がある。

2. 現在までの長期モニタリング項目の主要な見直し状況

<海域 WG 担当>

- ・評価シートの全体整理（海域管理計画モニタリング調書との統合）。
- ・新規項目として「シャチの生息状況調査」を追加。

<エゾシカ・ヒグマ WG 担当>

・No. 8「エゾシカの影響からの植生の回復状況調査（環境省知床岬囲い区内外）」
→No. 7「エゾシカの影響からの植生の回復状況調査（林野庁 1 ha 囲い区内外）」
に統合し、項目名を「No. 7 エゾシカ個体数調整実施地区における植生変化の把握（森林植生 / 草原植生）」に変更。

・No. ⑪「エゾシカの主要越冬地における地上カウント調査（哺乳類の生息状況調査を含む）」

→No. 12「エゾシカ越冬群の広域航空カウント調査」に統合し、項目名を、「エゾシカ主要越冬地における生息状況の把握（航空カウント/地上カウント）」に変更。

・No. 9「密度操作実験対象地域のエゾシカ採食圧調査」・No. ⑫「エゾシカの間引き個体、自然死個体などの体重・妊娠率など個体群の質の把握に関する調査」

→長期モニタリング項目としては削除（調査は「エゾシカ管理計画のモニタリング」として継続）。

・No. 10「エゾシカによる影響の把握に資する広域植生調査」

・No. 11「シレットコスミレの定期的な生育・分布状況調査」

・No. 13「陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況調査（外来種侵入状況調査含む）」

・No. 14「陸生鳥類生息状況調査」

・No. 15「中小大型哺乳類の生息状況調査(外来種侵入状況調査含む)」

・No. 20「ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査」

→モニタリング内容（項目名、実施主体、評価項目、モニタリング手法、評価指標、評価基準）を見直し、実態を踏まえて適正化・明確化（一部変更）。

- ・新規項目として「知床半島のヒグマ個体群」を追加。

<適正利用・エコツーリズム WG 担当>

・No. 19 「利用実態調査」

→内容を見直し、新たに「適正利用に向けた管理と取組」、「適正な利用・エコツーリズムの推進」、「利用者数の変化」の3項目に分けて新設。

<科学委員会担当>

・No. 21 「気象観測」

→継続。これまでモニタリングが未実施だったため、内容を整理し、H31からのデータ収集等を検討・実施。

・No. 24 「年次報告書作成による事業実施状況の把握」

・No. 25 「年次報告書作成等による社会環境の把握」

→継続。No. 25 は必要に応じて年次報告書への情報追加を検討。

・No. 6 ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査

・No. 22 海ワシ類の越冬個体数の調査

・No. 23 シマフクロウのつがい数、標識幼鳥数、死亡・傷病個体と原因調査

・No. ⑧オジロワシ営巣地における繁殖の成否及び巣立ち幼鳥数のモニタリング

・No. ⑨全道での海ワシ類の越冬個体数の調査

→評価の考え方について整理。

No.	モニタリング項目	対応する評価項目
1	衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィルaの観測	I、IV、VIII
2	海洋観測ブイによる水温の定点観測	I、IV、VIII
3	アザラシの生息状況の調査	I、III、IV、VIII
4	海域の生物相、及び、生息状況（浅海域定期調査）	I、II、III
5	浅海域における貝類定量調査	I、II
6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	II、III、IV、VII
7	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査（林野庁1ha囲い区内外） エゾシカ個体数調整実施地区における植生変化の把握（森林植生 / 草原植生）	III、VI
8	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査（環境省知床岬囲い区内外）	III、VI
9	密度操作実験対象地域のエゾシカ採食圧調査	III、VI
10	エゾシカによる影響の把握に資する広域植生調査 知床半島全域における植生の推移の把握（森林植生 / 海岸植生 / 高山植生）	III、VI、VII、VIII
11	シレットコスミレの定期的な生育・分布状況調査 希少植物（シレットコスミレ）の生育・分布状況の把握	III、VII、VIII
12	エゾシカ越冬群の広域航空カウント調査 エゾシカ主要越冬地における生息状況の把握（航空カウント/地上カウント）	VI
13	陸上無脊椎動物（主に昆虫）の生息状況調査の把握（外来種侵入状況調査含む）	III、VI
14	陸生鳥類生息状況調査の把握	III、VI
15	中小大型哺乳類の生息状況調査の把握（外来種侵入状況調査含む）	III、VI
16	広域植生図の作成	III、VII、VIII
17	河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数モニタリング	II、IV、V
18	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオシヨロコマの生息状況（外来種侵入状況調査含む）	III、V、VIII
19	利用実態調査	VII
20	ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査 ヒグマによる人為的活動への被害状況	VII
21	気象観測	VIII
22	海ワシ類の越冬個体数の調査	II
23	シマフクロウのつがい数、標識幼鳥数、死亡・傷病個体と原因調査	III
24	年次報告書作成による事業実施状況の把握	III、VII
25	年次報告書作成等による社会環境の把握	III、VII
	新 適正利用に向けた管理と取組	VII
	新 適正な利用・エコツーリズムの推進	VII
	新 利用者数の変化	VII
	新 知床半島のヒグマ個体群	II、III
①	航空機、人工衛星等による海水分布状況観測	I、IV、VIII
②	アيسアルジーの生物学的調査	I、IV
③	「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握	I、III、IV
④	スケトウダラの資源状態の把握と評価（TAC設定に係る調査）	I、IV
⑤	スケトウダラ産卵量調査	I、IV
⑥	トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性	I、IV、VIII
⑦	トドの被害実態調査	IV
⑧	オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング	II、III
⑨	全道での海ワシ類の越冬個体数の調査	II
⑩	海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析	IV
⑪	エゾシカの主要越冬地における地上カウント調査（哺乳類の生息状況調査を含む）	III、VI
⑫	エゾシカの間引き個体、自然死個体などの体重・妊娠率など個体群の質の把握に関する調査	VI
	新 シャチの生息状況の調査	I、III、IV、VIII